

分け、個に応じた教材で学習を進める。基礎コースでは単語や文型のドリル学習を徹底して行き基礎学力を定着させることをめざし、発展コースでは基礎を踏まえさらにステップアップした内容で表現力をつけることを目指す。また、学習意欲を高めるために、両コースでALTが授業できるよう、指導過程を工夫する。

単元のはじめと終わりにプレテスト、ポストテストを実施する。

- ④ 基礎学力定着のための取り組みの一つとして、毎週水曜日の朝自習時間を「マンツーマン指導」の時間として位置づけ、生徒の希望者を対象に、原則として1人の生徒に1人の教師がついて指導する。
- ⑤ 選択教科において、基礎・基本の定着のための補充学習と、個人のよさを伸ばすための発展的な学習をできるだけ組み込むために、今年度は総合的な学習の時間を下限でとり、選択教科の時間を上限で実施する。

(3) 研究の成果と課題

研究の成果

① 数学科の成果

- ・コース別学習において、最初はコース選択がうまくできなかった生徒も、しだいに自分に適したコースを選択することができるようになった。また、学習意欲が見られ、発言や質問も多くなり、より多くの生徒の学習に反映することができた。「数学が好き」、「やや好き」をあわせて64%、全国平均は44%。「数学の授業がわかる」と答えた生徒が66%、全国平均は50%。「わからない」と答えた生徒が4%、全国平均は14%)
- ・3コースの進度をそろえるために、常時教師間で意見交換や生徒理解などの情報交換を行ったので、途中でも生徒がスムーズにコースを変更することができた。

② 理科の成果

- ・単元指導案を作成することによって、単元全体を見通した評価と指導の一体化を目指した授業を実践することができた。特に小テストを授業の中に計画的に配置し、形成的評価の資料とすることで、個に応じた指導をすることができるようになった。(88%の生徒が小テストは効果的だと感じている)さらに理科担当職員が授業に取り組むための共通理解を図ることができた。
- ・学習過程に予想や仮説を考えたり、それに基づいて実験方法を計画させるなどの場面を仕組んだことによって、常に見通しを持って授業に参加するようになってきた。(自分の考えで予想をして実験や観察をしている生徒が79%、全国平均は43%。理科を勉強すれば疑問を解決したり予想を確かめたりする力がつく意識している生徒が65%、全国平均は50%)
- ・単元指導案の中にT1、T2の役割を明確に示すことによって、T2が遠慮することなく授業にかかわり、遅れた生徒や疑問を持っている生徒に効果的に助言をすることができた。

③ 英語科の成果

- ・2年生の過去形の学習において、単元のはじめと終わりにスピーキングテストによるプレ・ポストテストを行った。その結果、Cレベルの生徒が10%減少し、Aレベルの生徒が2倍以上に増えた。また、全体的に話すスピードが速くなり、語順が定着した。
- ・2年生の未来形の学習において、ライティングに重点を置いて指導し、プレ・ポストテストを条件付英作文で実施したところ、ポストテストでは、肯定文・否定文ともにAレベルの生徒が増え、その分Cレベルの生徒が減少した。

[生徒の感想]

- TT
 - ・先生が2人いると質問しやすい。
 - ・ロールプレイなどで物語の内容がわかりやすい。
- 少人数学習
 - ・発表や質問がしやすい。
 - ・発表回数が増え、よく理解できた。
 - ・少人数だと間違えても恥ずかしくない。
- 習熟度別学習
 - ・自分にあつたレベルで学習できる。
 - ・自分と同じレベルの人ばかりで質問しやすかった。
 - ・自分のペースで学習できるのでじっくり取り組めた。

④ マンツーマン指導の成果

各学年とも10名前後の生徒が、毎週水曜日の朝は特別教室でマンツーマン指導を受けている。(その他の生徒は自分達の教室で自習)内容は計算問題が中心で、小学校3年生のレベルから中学生レベルまで順番にレターケースに並べられたプリントを、生徒が自分で選択して解いている。九九がまだ身につけていない生徒もおり、教師が横についてアドバイスしたり、ストップウォッチで時間を計ったりして支援している。

[生徒の感想] 教室でするときは、1人で取り組むのでわからないことが多い。先生に一つ一つ教えてもらおうと楽しくできて、わかるようになって嬉しい。やる 気が出てきた。

[教師の感想] 教室ではなかなか細かい指導ができず、意欲的に取り組ませることができなかった。別教室で横にいて、何が理解できていないのかよくわかった。また、コミュニケーションをとりながらゆっくり取り組ませると、それが一つ一つ生徒の自信につながっているように感じる。できた喜び、わかる喜びが目に見えてわかる。

⑤ 選択教科については、今年度は条件を整えたに過ぎない。

〈今後の課題〉

① 3教科から全教科に広げる

② 研究内容

○ 選択教科を中心とした補充・発展学習のあり方

○ 評価のあり方

○ 必修教科における基礎・基本の定着

③ 研究組織の変更(9つの教科部会と*3つの研究部会)

* 選択教科研究部, 評価研究部, 基礎学力研究部

(4) 研究成果の普及の方策

研究発表会開催 日時：平成 15 年 11 月 5 日 場所：波佐見町立波佐見中学校
テーマ：「確かな学力向上のための実践研究」

- 個に応じた指導の工夫改善 -

対象：全ての教職員

内容：公開授業，研究協議等

Web ページの作成

<http://www.town.hasami.nagasaki.jp/juniorhigh/>

フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績

・佐世保地区学力向上推進協議会実務担当者会における実践報告

(平成 15 年 6 月 4 日)

・平成 15 年度長崎県中学校教育課程研究協議会全体会における実践発表

(平成 15 年 8 月 1 日)

・長崎県教育研究協議会発行月刊誌「教育ながさき」平成 16 年 4 月号への掲載
研究発表会后，他郡市の教育事務所や他県の教育委員会，小・中学校からの視察があった。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15 年度からの新規校 14 年度からの継続校

【学校規模】 3 学級以下 4 ~ 6 学級
 7 ~ 9 学級 10 ~ 12 学級
 13 ~ 15 学級 16 学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・T による指導
 その他

【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】

・基礎学力を身につけさせるために週時程を工夫し、マンツーマン指導等の時間を設定している。

・学力を支える基本的な生活習慣等についてもアンケート調査し、分析・検討をしている。